

け や き

Vol.30

2022.9

発行/宝塚さざんか福祉会
宝塚けやきの里

福祉“畑”で

「実りの秋」が楽しみになってきた今日この頃、地元で農業を営んでいる友達の話の思い出しました。「働ける期間を考えたら、あと40回くらいしかチャンスがない。作りたいものが作れるか、一年一年が勝負や…」と作物に対する思いを話してくれました。

地元の農作物は一年に一回しか収穫できない種類の物なので、当時の年齢を考えると「これから農家人生を40年続けても、40回の収穫しかできない。種や苗から手をかけて育てても、天候の影響等を受けたりして、思ったようなものができない年もある。40回というのは、かなり限られた回数。一年一年が貴重になる。」のです。小さい頃から知っている友達が、とても格好よく見るとともに、農家としての覚悟を持っているなあと尊敬できる瞬間でした。

今年度、「サービス提供の視点」というテーマで研修を受講しました。「福祉業はサービスの質が低い」という言葉で講義が始まりました。恥ずかしながら、私自身も30代の頃に「福祉はサービス業やで」と当時の管理者に言われた際、ピンときませんでした。この研修で、改めて「サービスとは」という点を学び直させていただきました。

私も、実家に帰った時には、農家の友達に「真面目に福祉の仕事してるなあ」と思ってもらえるよう、日々のサービス向上に努めていきたいと思います。

所長 福田 加奈子

今月のトピックス

絵手紙制作の様子を少しだけ…

筆ペンや絵の具を使用して取り組みました。
皆様真剣そのものです。完成は乞うご期待！



ミニコラム

『ありのままでええやん。』

我々、対人援助職がカウンセリングや面談場面等において用いる手法の一つに、来談者中心療法というアプローチがあります。これは1940年代に米国の臨床心理学者カール・ロジャースが創始しました。

この療法の基本的な考えは、「来談者の話をよく傾聴し、来談者自身がどのように感じ、どのように生きつつあるかに真剣に取り組んでいきさえすれば、別にカウンセラーの賢明さや知識を振り回したり、押しつけたりしなくても、来談者自らが気づき、成長していくことができる」ということです。

その上でカウンセラーのあるべき態度として、次の3つの条件があります。

①自己一致

カウンセラー自身が感じていること、意識していること等、ありのままの自分を受け入れ、それを表現する言葉や態度が一致している状態が重視されます。

②共感的理解

来談者の考えや感情を「あたかも」自分のことのように感じる姿勢も大事にされます。来談者の悩みを想像し、理解する姿勢を十分に示すことが大切です。

③無条件の肯定的配慮

来談者がどんな考えや感情、行動をしていても、まずは肯定的に受け止める姿勢。無条件に受容することを大事にします。また本人なりにその考えに至った理由を肯定的に傾聴していきます。

ここでは来談者中心療法について、大まかな説明を掲載しておりますが、実際の現場ではこの他に複数の手法をもって支援が展開されます。

ところでなぜ私が今回、ロジャースの来談者中心療法を取り上げたかということ、人は誰しも大なり小なりの悩みや課題を抱えており、日々のメディアでは様々な報道がなされ、新型コロナウイルスに関することもそうですが、悲惨なニュースを目にして何ともし難い感情に苛まれることもあることでしょう。

決してメディアによる影響が全てではありませんが、そのような中であらゆるものごとや自他ともに無条件に肯定することの困難さは勿論のこと、その意義を私なりに感じる事ができたからです。

多様性に溢れる社会や、人と人との営みの中で、無関心でいることなく、互いを理解し、自分自身の存在も肯定すること。

そして誰一人として排除されることなく、“ありのままでええやん。”と互いを認め合えますように。

引用・参考資料：

一般社団法人 日本臨床心理士会.「来談者中心療法・カウンセリング」. <http://www.jsccp.jp/near/interview5.php>

ブレイディみかこ.ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー.新潮社

NHK 大阪放送局.夜ドラ「あなたのブツが、ここに」

主任・サービス管理責任者 片山 翼

社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会 宝塚けやきの里

〒665-0825 兵庫県 宝塚市 安倉西4丁目1番1号 TEL:0797-81-9161 FAX:0797-81-9162

e-Mail: keyakinatosato@sazankafukushi.com HP: <http://www.sazankafukushi.org/>

